

## 自民まどか・自民大野城 視察報告書

研修者	天野嘉久孝、田中健一、高山やす子、森和也、中村真一、関井利夫、 山上高昭、井福大昌
日時	平成30年10月10日（水）～12日（金）
場所	シティホールプラザ アオーレ長岡
テーマ	基調講演 「地方分権へのまなざし」
対応者 (講師)	東京大学史料編纂所教授 本郷和人氏
概要	<p>(1) 日本は昔から中央集権か？</p> <p>「古代の昔から日本は統一国家であった」という歴史教育を受ける。確かに万世一系の天皇を戴く国柄として正しいのだが、本当に都を核としてまとまる中央集権の国だったのか？</p> <p>(2) 貨幣を例に</p> <p>大和朝廷の時代にすでに貨幣が製造されていたことが、教科書などに記述されているが、和同開珎が日本列島の隅々まで流通していたわけではない。和同開珎が用いられたのは都の周辺のみであって、その他の多くの土地では絹や米が貨幣とされ、物々交換が普通に行われていた。日本列島に本当の意味での「貨幣経済」が浸透したのは鎌倉時代、日宋貿易によって膨大な量の銅銭がもたらされたあとの、13世紀の第2四半期であると考えべきである。</p> <p>(3) 地方行政の形骸化</p> <p>古代の日本では、行政の単位として「国」が置かれていたが、その国を司る行政官として、国司が任命されていた。例えば、武蔵国の守に任命された人が「武蔵守」となるが、守に任命された人は、自身の任国に直に赴いて生活するわけではなく、現地には部下を派遣し、彼らはいくまでも中級の貴族として京都で暮らす。実質的には現地に丸投げし、地域から受納しやすい税を吸い上げる程度の関わりしかもたない。</p> <p>地方行政の形骸化は、朝廷からの統一的なコントロールが届かないことを意味する。それは、自分の土地は自分で守らなければならない、という自力救済を必須とする状況でもあり、地域の有力な者たちは武装して他者の侵略を防ぐ。これが源氏や平家など、武士の誕生に他ならない。</p> <p>(4) 地域の特徴</p> <p>日本は西国から開け、この地域では流通が盛んであった。この利点を活用して発展を遂げた武士が平家であり、特筆すべきは、平家が重視した日宋貿易である。平家は、博多や福原（神戸）などを拠点として宋と交易を行ったが、そのうちで日本国内の流通に多大な影響をもたらしたのは、膨大な貨幣が流入してきたことである。</p> <p>遠くの地域との交易が進められる中で、特に京都と蝦夷、また京都を博多と結ぶ日本海交易が盛んになった。各地で製造された焼き物が、あるいは北海道の俵物（海産</p>

物)が特産物として都に運ばれ、さらには広い地域で売買されるようになる。またこの時代には、日本海交易に次いで、瀬戸内海交易も盛んに行われた。

#### (5) 武士と地方

日本の歴史は、天皇の歴史であるとともに、武士の成長の歴史でもある。日本列島の各地で誕生し、勢力を強めていった武士たちは、どのように支配圏を拡大していったのか。

鎌倉時代は東国に幕府、西国に朝廷が位置する格好になるが、朝廷に対して幕府の権力が優勢になった契機としては、1221年の承久の乱がある。関東の武士たちは西国へ侵入しながら、西国に分布する上皇の所領、上皇に味方した貴族たちの所領を取り上げて、こうした土地の権利を御家人たちに配分していった。

彼らには、所有地なり領地を「一円地」としてまとめる、集中的に保持するという概念がなく、そのため自身の領土を管理することが容易ではなかった。家の領地をまとめて発展のための努力を傾けることもままならず、他者の侵略にも遭いやすい。このような状態では、広域的かつ統一的な支配を視野に入れられるほどの有力な武士勢力が出現することは、まだまだ困難であった。

守護が「役人」の段階を超えて、配属された国を一円的に支配するようになるのは、室町時代である。そうした守護を、守護大名と呼ぶ。さらに15世紀後期ごろから守護大名の一部は戦国大名となり、一国を軍事的にも経済的にも支配下におさめて税制も整備する一方、領内における争いの調停など、領民に対するサービスも行い、権力主体としての総合的な機能を備えていく。

戦国大名が優勝劣敗を繰り返すうち、日本列島全体を網羅する統一権力が生まれてくる。それは言うまでもなく、織田信長や豊臣秀吉によって主導された成果である。日本全国を本当の意味で一つの国家とみなすことができるのは、ようやくこの時点、16世紀も終わりに近づいてのことかもしれない。

#### (6) 結 言

中央集権は明治になってからであるが、現代の黒船はなにか？人口減少であると考えている。今こそ、明治の中央集権とは逆に、地方の自治権移譲を強く後押しすべきではないか。地方分権しないと、日本は生き残れないのではないか。第2の明治維新、地方からのボトムアップこそが、新しい日本を支えていく。

#### 所感

歴史を紐解き、統一国家の成り立ち、中央集権などについて論じられた。

明治になって中央集権が確立し、東京一極集中となっているが、次なる黒船、人口減少に対し、日本はどうすればいいのか。地域・地方に権限を移譲と簡単に言っても、具体的な方策がなくそれが効果的なのかもわからないが、市会議員として、当然日本国全体のことについて考えていかなければならない。

人口減少問題にどう対応するか、地方分権が強化されると何が変わるのかなど、しっかり考え、勉強していきたい。

—作成者 森 和也—



## 自民まどか・自民大野城 視察報告書

研修者	天野嘉久孝、田中健一、高山やす子、森和也、中村真一、関井利夫、山上高昭、井福大昌
日時	平成30年10月10日(水)～12日(金)
場所	シティホールプラザ アオーレ長岡
テーマ	長岡市の市民協働
対応者 (講師)	新潟県 長岡市長 磯田 達伸 氏
概要	<p>(1)はじめに</p> <p>長岡市は、新潟県内2番目の人口271,686人、行政面積891.06km<sup>2</sup>、平成の大合併により11市町村が合併。市の中央部を日本一の長さと流量を誇る信濃川が縦断している。日本海に面する約16kmの海岸線がある。上越新幹線と関越・北陸自動車道が整備され、主要都市へのアクセスの良い高速交通体系が充実している。</p> <p>長岡まつり大花火大会は「日本三大花火」の一つで、昭和20年の長岡空襲を契機として、長岡花火には慰霊、復興、平和への祈りが込められている。全国2位の酒蔵数を誇る日本酒、長岡市発祥の錦鯉などがある。</p> <p>また、長岡技術科学大学等「3大学1高専」と15の専門学校が立地し、学生総数は約7,000人。平成16年10月発生した新潟県中越地震により今日まで復興に向けたまちづくりを進めてきた。</p> <p>(2)長岡市の歴史</p> <p>平成30年は、牧野家初代長岡藩主・忠成による開府から400年、北越戊辰戦争から150年の節目の年。</p> <p>北越戊辰戦争に敗れ、焦土と化した長岡藩に、支藩の三根山藩からの見舞い百俵の米を、教育が大切として学校設立資金に充てた。「何事も基本は人。人づくりこそすべての根幹である」との考え。「ランプ会」を発足して各界各層の人による「士民協働」によるまちづくりが行われ、今の長岡の礎を築いた。</p> <p>(3)長岡市の市民協働</p> <p>①市民協働の推進</p> <p>平成24年6月に「市民協働条例」を制定した。</p> <p>「協働によるまちづくり」を理念として、市民と行政が協働できる仕組みや環境整備等を具体的に推進するため。</p> <p>&lt;特徴&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・条文から施策の検討まで市民委員と市が膝詰めで創り上げた手作り条例。</li><li>・市民、市民活動団体、地域コミュニティ、事業者、市、市議会に関する個別内容を掲載。</li><li>・他自治体条例では例のない「地域コミュニティ活動の推進」を掲載。</li><li>・「米百俵の精神」を受け継ぎ将来のまちづくりを担う子どもたちの人材育成を掲</li></ul>

載。

※「市民協働センター」は市とNPO法人が協働で運営し、市民の自発的な活動や各種団体の立ち上げ・運営等に関する相談を受けるほか、関連する団体等との連携をコーディネートしている。

#### ②市民協働の場「アオーレ長岡」

平成24年4月、JR長岡駅前に屋根付き広場「ナカドマ」を中心に、アリーナ、市民交流スペース、市役所、議会等の機能が渾然一体に溶け合う複合施設・シティホールプラザ「アオーレ長岡」がオープンした。

#### ③観光交流拠点における市民協働

平成28年5月、県内12市町村の自治体・観光団体等が連携した中越文化・観光産業支援機構が発足し、地域の歴史・文化を活かした広域観光事業に取り組んでいる。

### (4)長岡市の人づくりと未来への投資 ～ 新しい米百俵

#### ①若者が活躍できるまちづくり

平成27年10月、将来のまちの活力維持や人口減少社会の諸問題を克服するため、長岡版総合戦略「長岡リジュベーション～長岡若返り戦略～」を策定した。将来を担う若者を地方創生の中心に据え、「若者定着」「子育て」「教育」「働く」「交流」「安全安心」「連携」の7つの戦略の推進により、人口減少に歯止めをかけ、2040年以降は人口23万5千人程度を維持することを目指す。

その推進組織として、市内29機関(3大学1高専15専門学校、金融機関、産業界、行政)が参画する「ながおか・若者・しごと機構」を設立した。

#### ②「NaDeC構想」の推進：イノベーションの拠点

市は、3大学1高専から「NaDeC構想」の提案を受けた。構想実現に向け、市、3大学1高専、商工会議所の6団体による推進コンソーシアムを設立。

学生を中心とした使い手がトライアンドエラーを繰り返して運用を考え、みんなで育てていく施設。

#### ③長岡市の将来像～長岡版イノベーションの推進

市政のあらゆる分野に先端技術や新たな発想を取り入れ、次の100年を創り出す「人づくり」と「未来への投資」を行う「新しい米百俵」に全力で取り組んでいる。

### 所感

歴史を紐解き、統一国家の成り立ち、中央集権などについて論じられた。

明治になって中央集権が確立し、東京一極集中となっているが、次なる黒船、人口減少に対し、日本はどうすればいいのか。地域・地方に権限を移譲と簡単に言っても、具体的な方策がなくそれが効果的なのかもわからないが、市議会議員として、当然日本国全体のことについて考えていかなければならない。

人口減少問題にどう対応するか、地方分権が強化されると何が変わるのかなど、しっかり考え、勉強していきたい。

—作成者 田中 健—